

医 師 と 医 師 会 を 結 ぶ 情 報 紙

令和8年9月15日／毎月1回15日発行

都医NEWS

Vol. 727

発行所 ■公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL. 03-3294-8821(代) 定価 ■1部 77円

令和9年度 東京都予算に対する要望事項	01
底流／地区医師会新会長紹介 ほか	02
みどりの広場 ほか	03
ふれあいポスト	04
感染症豆知識 ほか	05
地区医師会長からの一言	06



葛西臨海公園のコスモスと観覧車

令和9年度 東京都予算に対する要望事項

医療・介護・福祉の体制づくりのための施策として、13の重点医療政策を強く要望

用を要望する。

8月26日(水) 都庁にて、東京都保健医療局および福祉局幹部出席のもと、令和9年度東京都予算に対する要望事項を提出した。

はじめに尾崎治夫会長は、少子超高齢社会に歯止めがかからない中、医療界は物価高騰、人材不足により厳しい状況が続いていることを訴え、東京都医師会が考える重点医療政策を概説した。

続いて平川博之、土谷明男、川上一恵各副会長より以下の内容を説明した。

1. 高齢者施設利用者のワクチン接種費用の無償化

新型コロナウイルス感染症は、季節性インフルエンザと比較し重症化率、死亡率共に顕著に高く、重症者や死亡者の多くは高齢者である。高齢者施設でのクラスター発生を予防するため、施設利用者のワクチン接種費用の無償化を要望する。

4. 深刻さを増す医療介護人材不足への支援

少子超高齢社会では医療・介護・福祉サービス提供体制の充実が必要であるが、他産業への流出が止まらず慢性的な人材不足が続いている。医療介護人材確保のため、地域の実態にあった東京都独自の施策・支援を要望する。また、外国人医療介護職が安心して暮らしながら仕事を継続できるよう、東京都独自の支援体制の構築を要望する。

7. 医療経営状況調査の継続と東京の医療のレベル維持のための支援

診療報酬は令和8年の改定で3.09%の増加だが、病院物価対応分は10.49%で止まり、都内病院経営は、更に厳しくなる状況である。実態調査の継続と経営支援の強化を要望する。

12. 学校医の系統的研修システムの構築

健康教育に学校医が関わることで、教育効果が期待できる一方、学校医の職務に関する系統的研修システムは整備されていない。学校医の役割の明確化と効率的運用のため、研修システム開発への支援を要望する。

13. 積極的予防医療に向けて健診・検診における新規検査導入の推進

疾病の早期発見・早期介入による「積極的予防医療」を推進することが重要である。糖尿病性腎症の重症化予防に有効な「尿中微量アルブミン検査」、潜在的な心不全の早期発見につながる「NT-proBNP心不全予防検診」、胃がん一次予防に資する「便中ヒストリ菌抗原検査」の健康診断・各種検診への導入推進を要望する。



予算要望の様子

5. TOKYOオレンジ医療システムの充実

認知症のある方の身体疾患等病状悪化時に適切な医療を確保するために開始された本システムが、事業目的に沿って運用されるよう積極的な情報収集・指導監督を要望する。

特に自己決定や尊厳確保に細心の注意を払った運用を要望する。

9. 医療DXの推進

都内医療機関の電子カルテの普及は進んでいるが、連携と情報の活用までには至っておらず、DX化も他産業に比べ遅れている。医療機関と利用者の双方が実感できるDX推進のための支援を要望する。

10. 加熱式タバコに対する規制強化

紙巻きタバコの能動喫煙・受動喫煙の健康被害は明らかで、すでに規制強化されているが、この度、厚生労働省は、加熱式タバコでも主流煙・副流煙に発ガン物質を含む有害物質が検出され、健康への影響を否定できないと見解を示した。都民の健康を守るために、加熱式タバコも紙巻きタバコと同様の規制を行うことを要望する。

11. 下水を用いた感染症サーベイランスの強化

感染症流行の早期探知は、下水を用いた感染症サーベイランスが有効である。本技術を東京都の感染症対策として明確に位置付け、都内の観測体制整備に向けた事業の制度化を要望する。

これからの「かかりつけ医」のあるべき姿とは

最近、「AIが進歩すれば内科医はいらなくなるだろう」という言葉を耳にした。AIは患者さんの自覚症状から疾患を予想し、受診すべき診療科を提案する。救急車を呼ぶべきか否かの判断もしてくれる。そのままオンライン診療につながり電子処方箋が

発行され、葉は患者さん宅へ届けられることも可能な時代だ。これからはAーとオンライン診療クリニックが「かかりつけ医」になり、診療所で患者さんをお待ちだけの、私のような医者は不要になってしまうのだろうか…。

そんなことを考えているうち

ちに今朝も診療が始まり、患者さんが来院される。「先生の顔を見ると、安心します」「ここに来ると、ほっとするんです」そんな言葉をかけてもらうことがある。ほっとしたのは私の方だ。まだ、必要としてもらえている…。そのとき私は、特別な治療をして

心の拠点」でもある。困ったときに思い出してもらえる存在であること。それは、地域に根ざした開業医だからこそ果たせる役割だ。

国では、医療と介護を一体で支える「地域包括ケアシステム」が進められている。高齢化が進む中、病院だけでは

なぎ、患者さんがより安心して医療を受けられるよう支援するシステムである。今後技術の進歩により、一層の発展が期待される。

AIが医療を助けてくれる時代だからこそ、かかりつけ医には患者さんの背景を理解し、その価値観に寄り添い、

AIがどれほど賢くなっても、その力は失われることはない。

むしろ、AIが進歩するほど、かかりつけ医は“人間らしき”を武器にした、地域に欠かせない存在になっていくのだと思う。

(日享子 尚子)

「心配り」心を配るという細やかな思いに惹かれます。

関東甲信越静地区衛生主管部（局）長・
医師会長合同協議会

標記協議会が、7月11日（土）に宇都宮市内のホテルで開催された。この協議会が都県医師会と行政衛生主管部が一堂に会し、各地域の医療提供体制について検討する稀有なスタイルの会議で、その協議内容は注目を集めている。

医療構想の策定に向けた検討体制について（静岡県）「医療扶助におけるオンライン資格確認の導入格差と、今後の『要否意見書』電子化を見据えた課題・対策について（静岡県医師会）」「薬剤の不足や医療材料の不足・高騰に対する対応について（群馬県医師会）」「議題2は佐野圭吾栃木

る状況の中で、懸命な努力が行われている現状が明らかにになった。東京都医師会からは西田伸一理事より、高齢者診療における医療連携でかかりつけ医中心の診療体制の重要性について、熱のこもった答弁があった。

最後に来賓談話として、榎

令和8年度 関東甲信越静冈
衛生主管部(局)長・医師会会長合同

A man in a dark suit and white shirt is standing at a wooden podium, speaking into a microphone. He is holding a small red object, possibly a book or a folder. To his right is a large, vibrant floral arrangement with pink, yellow, and white flowers. The background features a wall with vertical stripes in shades of brown and beige. In the foreground, the backs of several audience members' heads are visible as they sit at tables, facing the speaker. The setting appears to be a formal conference or reception hall.

多摩市
医師会
中村 直
ひまわり

④ 専
③ 合
② 招
① 士

ゆき
強之
(内科、消化器科、
血液内科)

浅井秀実栃木県医師会副会長の開会宣言のあと、主催の福田富一栃木県知事、稲野秀孝栃木県医師会長の開会挨拶では、栃木県の活発な状況について紹介があった。続いて来賓を代表して、榊原毅厚生労働省大臣官房審議官、松本吉郎日本医師会長の祝辞があった。

会)」「地域フォーミュラの推進について(茨城県医師会)」「訪日外国人向けオンライン診療サービスの問題点について(神奈川県医師会)」「各都県の『重点支援地方交付金』の医療機関等への支援の実際、また、各都県独自の支援金・補助金などの支援策について(新潟県医師会)」「大学医学部地域枠の現状と課題に

よる「義務化された高齢者施設等と医療機関との連携体制を有効性あるものにするための取り組みについて(千葉県医師会)」で、限られた時間ながら各都県の医師会や行政から、要点を集約した発表と白熱した議論が交わされた。

それぞれの論点について、各都県の置かれた大きく異なる

原厚生労働省大臣官房審議官、渡辺真俊厚生労働省関東信越厚生局長、茂松茂人日本医師会副会長から総括があり、次期開催団体挨拶として加陽直実静岡県医師会長から「栃木に負けず静岡には素晴らしい母も餃子もあるのでお楽しみに」とユーモアを交えたスピーチがあり、片山辰郎栃木県医師会副会長の挨拶で

協議会は閉会した。

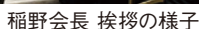
その後、会場を移した懇親会では和やかな雰囲気の中、参加医師会と行政の間で情報



交換が続き、有名餃子店の香ばしい香りにつつまれながら初夏の夕映えの中、一同帰途についた。



稲野会長挨拶の様子



- ①東京医科歯科大学医学部医学科
- ②東京科学大学医師会理事（産業医担当）、同副会長、都医予備代議員、日医疑義解釈委員会委員
- ③読書
- ④一期一会



- ① 広島大学医学部
- ② 多摩市医師会理事、同副会長、都医予備代議員
- ③ 合唱
- ④ 薔薇がなくちゃ生きていけない



- ① 日本大学医学部
- ② 練馬区医師会理事、同副会長
- ③ ゴルフ
- ④ 患者には愛情を
病気には闘志を



- ① 東邦大学
- ② 中央区医師会理事、同副会長
- 都医予備代議員、同代議員、同
- 地域医療推進委員会委員
- ③ スケッチ、ヨガ、ピラティス
- ④ 「心配り」心を配るという細やかな思いに惹かれます。

地区医師会新会長紹介

- ①最終卒業校
②略歴
③趣味
④好きな言葉

221
みどりの
広場患者に寄り添う
ということ

東邦大学医学部 6年 今村恵理子



従来医師は、淡々とし過ぎていて優しくない、寄り添っていない、という印象があった。だから、近年の医学教育はベッドサイドで一人ひとりの患者との関わりを重視する方向へ変化しており、喜ばしいことである。しかし、臨床実習を通じて、淡々としているように見える医師の姿勢こそ患者への寄り添いなのではないか、と考えるようになった。

救急科の実習では、頭部から大量に出血した患者の初期対応に立ち会った。救急医は冷静に創部を縫合し、周囲への的確な指示を出していた。その姿は一見すると驚くほどの淡々としていた。しかし対応を終えた後、その医師は看護師と短く言葉を交わし、深呼吸をするように気持ちを切り替えていた。患者の前では動揺を見せないが、決して感情がないわけではない。そのことを初めて実感した瞬間だった。

また脳神経内科の実習では、原発性脊髄腫瘍と診断された、婚約したばかりの二十代の女性と出会った。回診中は落ち着いて受け答えをしていた彼女が、夜間に一人涙を流している姿を見た時、私は胸が締めつけられた。一方で担当医は普段どおりに病状を説明し、病室を出た後に静かにため息をついた。その姿から、医師も患者の人生を重く受け止めていること、しかしその感情に呑み込まれないよう

う努めていることを知った。小さな手術一つでも患者にとっては一生に一度の出来事である。動揺している患者にとって、冷静に構えている医師の姿が安心感を与えるのは想像に難くない。

医師の役割は、患者の苦しみに共感するだけではなく、患者の立場を理解し寄り添いながらも、自らは冷静さを失わず患者とともに最善の治療を模索することである。医学教育の基礎を築いたウィリアム・オスラーは「医学は不確実性の科学であり、確率の「アート」である」と述べた。その「アート」には診断や治療の技術だけでなく、自らの感情を制御しながら患者に向き合う姿勢も含まれている。

以前抱いていた「優しさ」ではないか。患者に寄り添うが呑み込まない、それもまた医師に求められる技術なのだと思ふ。

医師になるまであと少しとなった。臨床実習で出会った医師は皆、決して冷たい人ではなかった。患者の苦しみを受け止めながらも、その感情に呑み込まれず、静かに最善を尽くしていた。その姿は、な医師になりたい。

知ってますか？

HL7 FHIR
(エイチエルセブン ファイア)

HL7 Fast Healthcare Interoperability Resourcesの略。HL7 Internationalが策定した、電子カルテや検査結果、処方情報などの医療情報を、異なるシステム間で電子的に交換・共有するための国際標準規格。医療情報の相互運用性を高める技術で、電子カルテ情報共有サービスにも採用されるなど、医療DXを支える重要な基盤となっている。



1655年、小川村の開拓に際して創建した醫王山小川寺

「寺院・雑木林・用水路」の小平市
発展の歴史と文化が
感じられる町

趣味の散歩

小平市は、武蔵野台地の開拓によって発展した町で、「寺院・雑木林・用水路」17世紀初頭、幕府は新田開拓を進め、玉川上水から分水を引くことで、武蔵野の原野に人々が暮らせる環境を整えました。こうして小川新田や鈴木新田などの村が形成され、農業を基盤とする地域社会が築かれていきました。

村の中心には寺院が建てられ、人々の信仰の場であるだけでなく、教育や戸籍管理、地域交流の役割も担いました。小平のお寺は、豪華な大寺院というより、「農村と

発を進め、玉川上水から分水を引くことで、武蔵野の原野に人々が暮らせる環境を整えました。こうして小川新田や鈴木新田などの村が形成され、農業を基盤とする地域社会が築かれていきました。

また、武蔵野特有の雑木林は、薪や落ち葉を得る生活資源として大切に守られ、農地と循環しながら暮らしを支えてきました。現在も、市内には昔ながらの風景が残されています。

代表的な名所には、緑豊かな玉川上水沿いの散策路、歴史ある寺院が点在する小川寺周辺、武蔵野の農村景観を伝える小平ふるさと村、そして平櫛田中彫刻美術館などがあり、小平の歴史と文化を身近に感じることが出来ます。

(小平市医師会 伊藤敬雄)

労災の診療費請求が
わからない?!不明点は電話で
スッキリ解決!!東京労働保険
医療協会に
加入すれば

- 健保の請求とどこが違う?
- 労災患者の対応は?
- 書類は何か必要?
- そもそも、これって労災?
- 労災の算定ってどこに相談すればいい?

- 労災・地公災・自賠責の不明点も電話で解決!
- レセプトはしっかり点検プラス修正!
- 個別説明会や講演会で労災知識のベースUP!



東京労働保険医療協会

〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台2-5
東京都医師会館 4階
TEL 03-5577-2960

東京消防庁救急相談センター (#7119)

増加する救急相談と相談医の役割

令和8年上半期の受付総件数は252,904件(前年比2.8%増)に達し、うち救急相談は182,200件(同5.3%増)で、1日平均1,000件を超えました。

救急相談では、看護師が効率的な問診により相談者の訴えを把握し、プロトコルを柔軟に活用しながら、おおむね7~8分以内に緊急度を判断しています。

現在のプロトコルVer.5には、成人80項目、小児18項目が収載されています。一方、令和7年度には、プロトコルに該当しない相談が全体の12%、約8件に1件の割合で発生しています。こうした「プロトコル外(OP)」の事例は、必ず医師の判断による緊急度評価を受ける運用となっており、繁忙期には看護師1人当たり1時間に1件程度発生します。

救急相談の需要が増加する中、相談医の先生方のご助言とご支援は、業務の質の維持・向上に欠かせません。日々の相談対応や事例検証へのご協力に心より御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

東京消防庁救急相談センター受付状況 (速報値)

[令和8年1月1日から6月30日まで]

	累計	前年件数	前年同時期増減 (増減比)	受付件数に 占める割合	前年 同時期	1日 あたりの 件数
総着信件数	304,224	290,182	14,042 (4.8%)			1,680.8
受付件数	252,904	246,029	6,875 (2.8%)			1,397.3
救急相談	182,200	173,107	9,093 (5.3%)	72.04%	70.36%	1,006.6
救急要請	37,009	32,535	4,474 (13.8%)	(※1) 20.31%	(※1) 18.79%	204.5
医療機関案内	67,012	68,765	-1,753 (-2.5%)	26.50%	27.95%	370.2
相談前救急要請	3,624	4,053	-429 (-10.6%)	1.43%	1.65%	20.0
かけ直し依頼	68	104	-36 (-34.6%)	0.03%	0.04%	0.4
応答率(※2)	83.1%	84.8%	-1.7P			

(※1) 救急相談件数に占める割合

(※2) 応答率とは、総着信件数に占める受付件数の割合(応答率=受付件数÷総着信件数(%))

看護師への医師助言	12,110	13,910	-1,800 (-12.9%)			66.9
通信員への医師助言	24	49	-25 (-51.0%)			0.1

立川市医師会

足立哲也

Glacier Express乗車記

今年のお盆休みもEurope (Switzerland/France) を旅行してきた。以前から時々言及しているが私は無類の鉄道マニアであり、今回長年の夢であったGlacier Express/Bernina Express (氷河特急/ベルニナ特急) への乗車記を寄稿したい。

まず羽田からANA直行便でMilanoへ降り立ち、Italy/Switzerland国境の街Tiranoを目指した。本来であればMilanoからTiranoは鉄道で一本であるが、冬季Milano Cortina Olympicの整備を急ピッチで進めているのか、途中Leccoという駅で乗換バス輸送を強いられた。程なくしてTiranoへ到着し、今回はほぼ素通りというItalyでそれらしいpasta lunchなど堪能してこれからの旅程に胸躍らせた。



Tiranoからまず前座というべきBernina Expressに乗車し、St. Moritzを目指した。Tiranoは海拔441mであるが、海拔1,775mのSt. Moritzまで山あいを2時間半かけて進んで行く。この鉄道のhighlightは、何と言ってもPonde di Brusioである(写真上)。写真の右方向から橋の下を潜ってきた路線が直径100m/高度差30mのloopを1周して高低差を稼いでいる。幸いにも乗車中の車窓から良い写真が撮れた。当日はSt. Moritzに到着後、湖畔の宿に一泊した。St. Moritzは冬の高級resortとして有名であるが夏は静かで閑散としており、道沿いのCHANELやGUCCIなどの高級店が田舎の雰囲気とそぐわない感じであった。

翌日は今回の主目的であるGlacier Expressにいよいよ乗車する日である。このGlacier ExpressはSt. Moritz - Zermatt間291kmを約8時間かけて走行するあまりにも有名なresort expressであり、peak seasonの座席予約は極めて困難である。座席は1st classと2nd class (発売は3ヶ月前) の他にexcellence class (国際線の1st class相当) があり、20席/日しかないものの1年前から予約ができるこのexcellence classを筆者は昨年のうちに抑えておいた。車両は全面ガラスの展望列車であり、後部に専用のbarと専任のconciergeが配置されている(写真右上: 左側2列目が家内)。



行程中French full courseが振る舞われ、alcoholもchampagne - white - white - rose - red - dessert wineと飲みっぱなしであった。このGlacier Expressでは急勾配を上ということで設計された傾いたglassが有名であり、これで飲むwineもまた格別であった(写真右)。この路線は海拔最低584mから最高2,033mの地点まで走行するため、勾配がきつい区間(最大勾配傾斜率: 12.5%)は線路間のcogwheelに歯車動輪を噛み合わせて上る方式を採用しており、日本では大井川鐵道に現存するのみである。こうして飽きることのない車窓や最上級のもてなしを堪能し、終点Zermattに到着した(写真下)。



Zermattは名峰Matterhornの麓街として有名であるが、観光客でごった返しており、思いのほか日本人もたくさん来訪していた。翌日はMatterhorn観光後に鉄路にてGenevaに向かい、そこから国境を越えてFrance入りした。FranceではProvence - Normandie (Mont Saint-Michel) - Parisと滞在したが、その記事に関しては今回割愛させていただく。

(『立川市医師会ニュース』2025年10月 第639号より抜粋)



無 声 拝 聴

ラジオの時間

ラジオとの再会は、思いがけない出来事から始まりました。東京都医師会の広報委員となり、ニッポン放送「飯田浩司のOK! Cozy up!」の『モーニングライフアップ 今日早起きドクター』に出演することになったのです。収録した自分の話を聴いてみたいと思ったものの、家にはラジオがありません。どうしたものかと調べて、ようやく「radioik」という便利なアプリの存在を知りました。

例えば、ラジオに夢中だったのは中学、高校の6年間だけでした。深夜放送を布団の中でこっそり聴き、お気に入りのパーソナリティの話に笑い、まだ知らない音楽に心を躍らせる。テレビとは違い、声だけだから想像が広がり、遠い世界とつながっているような気がしたものです。

大学に入ると、いつしかラジオは生活から姿を消しました。気がつけば40年近く耳にすることもなく、その存在すら忘れていました。ところが、radioikのおかげで、あの頃の楽しさが一気によみがえりました。しかも今は放送を聞き逃してもタイムフリーで楽しめます。便利な時代になったものです。朝のニュース、お気に入りのパーソナリティの雑談、リスナーからの投稿。気づけば散歩もレセプト作業も、いつもラジオと一緒に。自分でも驚くほどのヘビリスナーになりました。

ラジオは、情報を届けるだけでなく、人の気配を運んでくれるメディアなのだと思います。医師会へ向かう道すがら今日もAirPodsを耳に、少しだけ豊かな「ラジオの時間」を楽しんでいます。

(宇野真二)

人獣共通寄生虫 トキソプラズマ

妊婦に知って欲しい感染症に先天性トキソプラズマ症がある。妊娠中の初感染により胎児に経胎盤的に感染することで、流死産、網脈絡膜炎による視力障害、水頭症、脳内石灰化、精神運動機能障害等を引き起こす。主な感染経路は猫の糞で汚染された土壌への接触と生ハムや加熱不十分な肉類の摂取であり、ガーデニングや砂場では手袋を使用すること、猫のトイレ掃除は他者にまかせる、肉類は十分に加熱すること等は半ば常識となりつつある。

トキソプラズマの感染率は、全世界人口の1/3、日本では10%程度と推定されており、最も感染拡大が成立した人獣共通寄生虫であるかもしれない。トキソプラズマはネコ科動物を終宿主、ネズミや鳥、家畜などを中間宿主としているが、終宿主であるネコ科動物の腸内でのみ有性生殖を行うため、最終的にはネコ科動物の体内に戻らないと生活環が完結されない。

その生活環を完結させるために、寄生虫が宿主の行動を変化させる現象が「宿主操作」である。トキソプラズマに感染したネズミの猫に対する警戒心の低下はよく知られている例である。ネズミは生得的に猫の尿臭や体臭に強い忌避反応を示すが、感染個体では警戒行動が弱まり、場合によっては接近する「致死の誘引」に至り、捕食されやすくなるというものである。

トキソプラズマ感染により、狼が群れのリーダーになるオズが46倍、出生群から離れて行動するオズが11倍高かったという報告もある。またネコ科のピューマの生息域と行動圏が重なる個体ほど感染率が高かった。この結果は寄生虫の感染が個体行動から群衆・生態系レベルへ波及する可能性を示す点で興味深い。

ヒトにおいても感染と性格傾向、事故リスク、精神・神経疾患との関連を示す研究があるが、多くは統計的相関であり生活環境や社会的要因等の交絡因子を排除できず、今後の更なる研究が待たれる。

(文責：武知公博)

感 染 症 豆 知 識

東京都医師会
感染症予防検討委員会都医からのお知らせ
INFORMATION

第140回 慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー

慶應義塾大学信濃町キャンパス総務課内 生涯教育研修セミナー事務局
TEL: 03-5363-3611 E-mail: med-somu-3@adst.keio.ac.jp

日時▶ 10月24日(土) 15時～18時30分

形式▶ ハイブリッド形式(現地: ハイアットリージェンシー東京 地下1階「桃山」/ Zoom配信)

講演会▶ 『ポストコロナの感染症と社会 ―ネクストパンデミックに備える―』

モデレーター▶ 南宮 湖(慶應義塾大学医学部感染症学教室 教授)

参加対象▶ 慶應義塾大学医学部、三四会、慶應医師会、慶應義塾大学関連・紹介病院、東京都地区医師会に所属する医師

単位取得▶ 日医生涯教育制度2単位(CC: 6、28、45、46)

申込方法▶ 参加費無料・事前登録制(お申込多数の場合は先着順となります)

※詳細は慶應義塾大学医学部のWebサイト(https://www.keio.ac.jp/ja/med/)の「お知らせ」にて後日ご案内します。現地参加は、定員に達した場合、申込受付を締め切りますので、ご了承ください。

次回開催▶ : 令和9年2月13日(土) 予定

医師国保からのお知らせ

医師国保では組合員の疾病予防のため
下記の検診等を受けられた方に
助成金を支給しています

○人間ドック等健康診断

対象者1人につき年度内1回3万円を限度に支給

○乳がん検診

対象者1人につき年度内1回5千円を限度に支給

○脳血管健康診断(脳ドック)

対象者1人につき年度内1回1万5千円を限度に支給

詳しい内容、申請方法等は当組合ホームページをご覧ください
www.tokyo-ishikokuho.or.jp

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6431 (総務課)

月曜から金曜あさ
6時10分頃からFM93.1 AM1242
ニッポン放送

放送中!

『モーニングライフアップ
今日の早起きドクター』

ニッポン放送(AM1242kHz/FM93.0MHz) 朝の番組「飯田浩司のOK! Cozy up!」内で6時10分頃から5分程度、東京都医師会の役員・委員会委員等が出演して生活に役立つ健康情報をお届けしています。過去の放送はすべて番組ホームページまたはポッドキャストから聴くことができます。

■番組ホームページ

http://www.1242.com/cozy/

■ポッドキャスト

https://omny.fm/shows/cozy-up/playlists/doctor

飯田浩司の
OK! Cozy up!

発行▼日刊現代 価格▼1650円(税込)

読者さんへは前向きに治療へ向き合う安心感を与えてくれる一冊である。

読み終わった後には、糖尿病は自分を責める病気ではなく、大切なβ細胞を守る生活を考える病気なのだと気づかされる。「もったいない」の対象は食べ物を残すことではなく、β細胞を無駄に働かせてしまうこと、という発想の転換も印象深い。医療者には説明のヒントを、患者さんには前向きに治療へ向き合う安心感を与えてくれる一冊である。

β細胞を、過酷な環境で働き続ける「ブラック企業の社員」に例える説明は平易で、専門知識のない読者にも病態の本質を理解しやすい。肥満だけが原因ではないこと、日本人が糖尿病になりやすい背景、食事や運動を我慢ではなく工夫として続ける視点など、日常診療での患者さんへの説明にも役立つ示唆が多い。

本書は、糖尿病を「闘う病気」ではなく、インスリンを分泌する限りある資源であるβ細胞を「いたわり守る病気」として捉え直す入門書である。

掲 示 板

ゼロからわかる
糖尿病
税所芳史 著



医師と医師会を結ぶ 情報紙

都医ニュース
NEWS

2026

Vol.
727

地区医師会長からの一言 渋谷区医師会長からの一言

渋谷区医師会長 内藤 淳



令和7年6月に渋谷区医師会長を拝命して以来、私が最も重視しているのは、医師会が時代の変化に対応しながらも、会員同士が直接語り合う場の価値を失わないことです。平成27年6月に理事に就任してから11年間、さらに直近4年間は副会長として医師会の業務執行に携わり、医療を取り巻く環境が大きく変化していく過程を内部から見てきました。特に、新型コロナウイルス感染症を契機とした社会構造の変化は、医師会の業務形態にも大きな変革をもたらしています。

大きな変革の根幹の一つに、社会全体で進むアナログからデジタルへの転換があります。人と人との物理的なつながりの一部が、DXによるつながりへと移行しつつあるということです。オンライン診療はその代表例であり、講習会を含む各種会議もWEBで行われる機会が増えました。今後は、地区医師会を含めた会議のあり方も、更にWEBへ移行していくのではないのでしょうか。

DXの活用は、合理的であり、経済的でもあります。しかし、人と人が直接向き合う時間には、なお代えがたい価値があります。一見すると余計な話、あるいは無駄に思える会話の中から、思いがけず貴重な気づきや新たな連携が生まれることがあります。

渋谷区医師会では、令和7年7月から理事会運営にタブレット端末を導入し、議事運営をほぼ完全にDX化しました。その

効果は大きく、以前は通常2時間半ほど、午後10時頃まで、時には11時頃までかかっていた理事会が、現在では30分から1時間ほどで終了するようになり、役員の先生方の貴重な時間を節約することができました。一方で、効率化が進むほど、何気ない会話から生まれる貴重な交流が失われるのではないかと心配もあります。

これからは、DXによる効率化を進める一方で、アナログ的な交流の場も意識的に増やしていきたいと考えています。渋谷区医師会には、数十名の会合ができる会議室と、さらに30名ほどが集える会員室があります。これらの施設をさらに有効利用し、会員の親睦や学術集会の場を広げていきたいと考えています。

その一端として、令和8年4月から「サックス部」を新設しました。現在は部員11名で活動しており、月に1回、プロのジャズサックス奏者であり大手音楽教室の講師でもある先生から講習を受けています。また、ほぼ毎週土曜日には2時間ほどの合同自主練も行い、目下、初歩的なジャズ楽譜に挑戦中です。こうした活動を通じて、診療や会議だけでは得られない会員同士のつながりが、少しずつ育っていくことを期待しています。

渋谷区医師会は今後も会員相互の連携と協力により、地域の公衆衛生の向上と福祉の増進に努めてまいります。皆様方からのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。